

奥武蔵

460

奥武蔵研究会

2025年(令和7年)4月



堂平山山頂 撮影：清水卯平氏

蟬指の想い出

小泉 重光

季節もだいふ暖かくなり、花盛りの頃となっています。けれども、それと同時に厄介なのがスギの花粉。杉林に囲まれて免疫ができていけるのか、掃除が大変になる以外にはさほど支障を感じませんが、花粉症の人達にとっては憂鬱な季節の到来といったところでしょう。それを過ぎれば深緑の頃となり、奥武蔵・秩父を歩くには絶好の時期到来となりますので、会員の皆様には存分に山歩きを楽しんでいただければと思います。

さて、今から6年前の5月のこと、藤本一美氏が鬼籍に入られる前に、二人で名栗の蟬指の嶋田さんのお宅にお邪魔したことがあります。昭和7年に出版された高橋源一郎氏の著作『秩父多摩山・総の海』の「蟬指探検」という記述に興味をもち、いつかは訪問したいと思っていたところ、あの「ボツンと一軒家」というTV番組に先を越されてしまいました。そこで藤本先生に相談すると同じく未訪問ということでしたので、すぐに話がまとまり同行することとなりました。車なら蟬指へはすぐなのですが、どうせ行くなら高橋源一郎氏と同じ道を辿ろうと、レールラック（荷揚げ用モノレール）の脇から続く急登を這うようにして登ったのでした。蟬指の標高が565mなので、下の林道から160mほど登った計算になります。

嶋田さんのお宅の南側には小平地があり、二人でそこに仕掛けられたイノシシの箱ワナのところへ飛び出しました。すると犬の鳴き声で様子を見にきた嶋田豊さん（ご主人）とバツタリ。わけを説明すると、「そこから上って来たのはあんた達が初めてだよ」と苦笑されてしまいます。その後、小一時間ほど楽しくお話ししていただきましたが、念願が叶って二人とも大変満足のいく一日でした。

今号の「鶴の田の伝説」について原稿を書いているときに、「そんな高所に鯉が棲んでいるものかね」と呟きつつ、蟬指の嶋田さんのお宅の庭先で、悠々と泳いでいる緋鯉を思い出した次第です。

目次	第460号	令和7年4月
----	-------	--------

蟬指の想い出	小泉 重光	表2
失われたシャングリラ	小泉 重光	1
鶴の田の伝説に関する一考察	坂口 由加里	5
シダ植物が豊富な奥武蔵	町田 尚夫	6
（2024年）		
奥武蔵・秩父地域に於ける山岳遭難		
宿谷の滝まで散策	斉藤 慶広	9
物見山と巖殿山正法寺	斉藤 慶広	10
小鹿野の道を行く	西東 昭夫	10
峠歩きと札所巡り	大川 満代	11
鎌倉源氏山	村木 悦子	12
風の道から釜伏山をへて野上へ	中塚 智恵美	12
忘年山行「顔振峠」	村木 悦子	14
浦山探訪	小泉 重光	14
草加宿七福神巡り	斉藤 慶広	15
初詣山行 竹寺・子の権現	大川 満代	15
青梅七福神巡り	星野 克典	16
城峯山から天空のカフェへ	高橋 澄夫	16
雨乞山から不動山	中塚 智恵美	17
山行計画	委員会構成	22
山行集案案内	奥武蔵情報	22
会務報告		20

奥武蔵 第 460 号
令和 7 年 3 月 20 日 発行

印刷所

株式会社
ヌーベル

成川
茂雄

加藤
恒彦

小泉
重光

編集者

〒175-0092
東京都板橋区赤塚 7-18-7

発行所

奥武蔵研究会

発行者

小泉重光

